

年頭のご挨拶

奈良21世紀フォーラム 理事長 森本公誠

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には新春を迎えられて、益々ご清祥のことと心からお慶び申し上げます。

昨年はまさに激動とも言える年でした。むろん、日本は3月11日、東日本を襲った巨大地震と大津波、それに伴う福島原発事故によるもの。いわば三重苦によって、単に被災地ばかりでなく、日本全体が危機的状況に追い込まれました。救いは国民の大勢が被災地の人々に心を寄せ、亡



くなられた犠牲者への冥福と被災地復興への祈りを捧げたことです。それは文字通り、人と人との「絆」を改めて思い起こさせるものでした。それでも自然は手を緩めず、9月には台風12号が奈良県をはじめ、和歌山・三重の各県を襲い、改めて自然の脅威を感じさせられました。

一方世界では、人と人との繋がりのもつ重要性が、現代の通信手段を借りて遺憾なく発揮されました。一つはアラブの政治の世界において、一つはヨーロッパの経済の世界においてです。アラブには長期独裁政権が多々存在していましたが、「携帯」という通信手段を武器に民衆が結集、まずチュニアのベン・アリ政権が倒れました。連鎖を呼んだのでしょうか。続いてエジプトとリビアで独裁政権が崩壊、他の国々も予断を許さないという情勢です。世のマスコミは「アラブの春」と名付けましたが、それぞれの国内は「春」とは程遠い内紛の時限爆弾を抱えています。

もう一つ経済の世界。「お金は天下のまわりもの」という言葉は日本でいつごろ生まれたのでしょうか。その「天下」とは広く見てもせいぜい日本止まりでしょう。ところが今や天下とは地球世界そのもの、お金は24時間瞬時にして世界を駆け巡っています。にもかかわらず、国家の政治家は自国の都合だけ考えて「国債」という名の借金に走り、その結果がいかに危険なものか、昨年、ギリシャ国債が教えてくれました。その影響はユーロという単一の通貨を使っているヨーロッパ諸国のみならず、日本を含め世界全体

に及んでいます。お蔭で日本は超円高に見舞われ、企業に不安感が漂っています。否応なく生き残りを掛けた知恵が求められます。

さあ、今年はこのを受けて発展を望むとすれば、それは知恵の発揮次第ということでしょうか。その点は当 NPO 法人でも変わらないかも知れません。万葉けまりや大仏書道大会など、当法人の企画事業がさらなる発展を遂げることは言うに及ばず、会員の皆様や担当者の新たな発想を得て、当法人の活動がよりいっそう一般の人々にも周知されることを望んでやみません。

どうか会員の皆様もご意見をお寄せいただいで、奈良 21 世紀フォーラムの活動を盛り上げて下さるようお願いし、新年のご挨拶と致します。

会務報告

定期総会、理事会の開催

平成 23 年度理事会および定期総会を 6 月 11 日（土）東大寺総合文化センター会議室において開催いたしました。

総会では平成 22 年度の事業活動、および収支決算の承認を受けました。

次に、平成 23 年度の事業計画と予算の承認を受けました。

承認をいただいた事業計画は以下の 6 項目です。

- ◎地域の歴史、伝承、伝統芸能を調査、記録保存、再現に関する事業として
 - ①「聖武天皇と光明皇后の衣装等の復元制作の監修報告書」の作成
 - ②「万葉けまり」の保存
- ◎地域活性化のための各種イベントの主催、後援する事業として
 - ③「第 2 回大仏書道大会」の開催
 - ④「奈良県の伝統食を賞味する会」の開催
- ◎まちづくり等を支援するための事業として
 - ⑤「吉野川源流の水源地の森を守る活動」
 - ⑥「神仏霊場会」の支援

最後に役員改選を行い、理事 28 名、監事 2 名が選任され、総会を終了しました。

総会終了後 堀井副理事長から記念講演をいただきました。「纏向遺跡のロマン」と題し、ご自身の経験も交え遺跡の発掘状況や、日本の古代史における纏向遺跡の位置づけ、大和の国と卑弥呼の関連等わかりやすく解説していただきました。



事業の進捗状況と今後の活動

1. 「光明皇后1250年遠忌法要奉納イベント」結果報告について

平城遷都1300年祭に協賛し、近畿日本鉄道が復元制作し東大寺に奉納する行事に当フォーラムが協力してきました。聖武天皇と光明皇后の衣裳等の監修を森本理事長、猪熊理事及び武部委員が担当いたしました。一昨年（平成22年）の遷都祭で奉納をいたしました。その経過、および復元内容について、現在報告書の作成を行っており、平成23年度中に完成する予定であります。

2. 「万葉けまり」の事業展開

平成23年度は前年度の平城遷都1300年行事の一環として取組んできた「万葉けまり」の披露を引続き行い、普及啓発に努めました。

日本書紀の史実を検証・発掘、当時の文化を甦らせることは奈良県の大きな財産の活用であります。

「万葉けまり」はその一つであり、当フォーラムの重要な事業と考えております。

(1) 平城京天平祭に参加

ゴールデンウィークに平城宮跡で実施された天平祭りに「蹴鞠今昔」のテーマで披露しました。

好天に恵まれた5月1日、午前午後の2回万葉けまりの紹介を行いました。このけまりは、奈良から、Jリーグを目指すサッカーチーム「奈良クラブ」を応援する為の行事でもあります。

そのあとサッカーボールを使用したけまりとボール遊びを行い、大勢の方々にけまりの楽しさを味わってもらいました。

秋の天平祭（予定日10月15日）への参加を予定していましたが、台風12号による災害復旧のため中止となりました。



天平祭り（平城宮跡）

(2) 東日本大震災復興支援「頑張ろう鹿嶋アントラーズ」で万葉けまりの披露

7月31日（日）大阪長居競技場で実施されたJリーグ公式戦「セレッソ大阪」対「鹿嶋アントラーズ」の試合前、サッカーのルーツである「万葉けまり」の披露を行い、普及啓発に努めました。

当日は試合前であるにもかかわらず、大勢のサッカーファンがけまりの妙技に見入っていました。



長居競技場

(3) 「第26回国民文化祭・京都2011」 に万葉けまり出演

10月29日(土) 京都府木津川市において国民文化祭の行事「恭仁京天平祭」が行われました。

祭りは、西暦740年から5年間都の置かれた恭仁京跡で開催され、いにしへの栄華を思い起こしました。

当時を偲ぶ行事として当会が「万葉けまり」を披露しました。

当日は、晴天に恵まれ、大勢の人が集まり、初めて(?)見る「万葉けまり」の妙技に見入っていました。

また、地元中学生サッカー部の皆さんや小学生に「けまり」の紹介、指導を行い、その後サッカー部と親善試合を行いました。



恭仁京天平祭

3. 「書の文化」の伝承事業

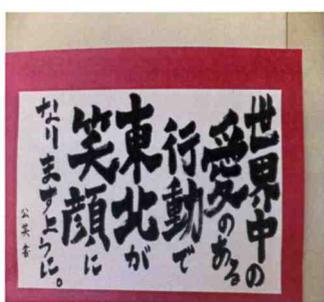
大仏書道大会を開催

奈良の伝統「書の文化」を継承、発展の為「第2回大仏書道大会」を東大寺大仏殿、東大寺総合文化センター金鐘ホールで平成23年11月26日、27日の二日間開催しました。

朝日新聞社と共催で、奈良県、奈良市、各教育委員会の後援、奈良教育大学書道部、奈良女子大学書道部の協力をいただき準備を進め、全国の高校生、および大学生を対象に約900校に案内状を送ったのを始め、新聞報道、パンフレット配布等を行い啓発に努めました。

(1) 「書道展」

「大仏さんに東日本大震災を祈願する」、「大仏さんに日本再生を祈願する」、「奈良の思い出」、「仏典から題材を得たもの」を課題に作品を募集しました。



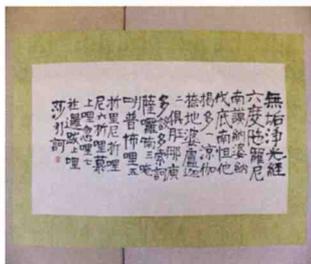
奈良市長賞



朝日新聞社賞



理事長賞



奈良県教育長賞

(2) 席書会

12月27日大仏殿東回廊において、奈良県および近府県の大学、高校生、中学生35名が写経と各人の書を綴って大仏さまに奉納をしました。

森本理事長から講話をいただいたあと、「唯心偈」の写経と自由題による揮毫を行いました。終了後、大仏さまの前に登壇、作品を奉納し、書道大会のテーマである東日本大震災からの復興、日本再生を大仏様に祈願しました。



席書会

(3) 講演会

午後からは、新装成った東大寺文化センターの金鐘ホールに於いて、奈良国立博物館館長の湯山賢一氏による記念講演を行いました。

演題は「書は人なり 一古文書と筆跡一」で書を通して現れる人物像について講演をいただきました。

東大寺を建立された聖武天皇の書から読取れるお人柄の紹介から始まり、光明皇后、そして平安、鎌倉、室町各時代に活躍された天皇や武将の古文書を紹介いただきました。

聖武天皇から織田信長の書まで紹介していただき、その筆跡からその人とな



講演会

り、時代の背景等をわかりやすく説明をしていただきました。

4. 「吉野川源流水源地の森を守る」活動 源流の森と水の支援事業

(1) 第8回奈良県「暮らし」と「環境」フェスティバルに参加

平成23年3月26日～27日、奈良県文化会館で「遊んで学ぼう、第8回奈良県“暮らし”と“環境”フェスティバル」が開催されました。同フェスティバルは環境汚染が叫ばれている中、今一度自分自身の問題として考えてみるきっかけになればと毎年開催されています。今年も「奈良21世紀コーナー」を設けて、源流水と水道水の飲み比べ、割箸づくりの実演、廃材を利用した子供工作、吉野地方の特産品の販売等通じ、木と水の関わりを理解してもらうことに努めました。



割箸づくり



廃材を利用した工作づくり

2) “水源地の村”からの提言シンポジウムに協力

平成23年8月24日（水）橿原市商工経済会館大ホールで開催された「森と水の源流館」主催のシンポジウム“水源地の村”からの提言「源流学的スローライフのすすめ」に協力いたしました。



基調講演は、森 真也 氏（株式会社 JTB 西日本奈良支店長）が「地域交流による活性化めざして」をテーマに旅行業界から見た、地域交流ビジネスの

ありかたについてのお話がありました。旅行が団体旅行から個人旅行に変化をしている。また、旅行先、体験その他多様化している。特に自然での体験、物作り等の体験への関心が高く、自然の宝庫、素材の多い川上村は地域全体でもてなしのできる村、旅行先にしていくことが可能である。

地域資源の魅力の再発見をし、お客さまのニーズとか、求めることを発信する事が大切であると締め括られました。

事例報告の紹介では「お越しく下さい！水源地の村へ」とかわかみの PR、他の地区から移住された方の体験談等の紹介があり川上村での暮らしやすさ、人の繋がりなどの紹介がありました。

(3) 源流ふれあいデーに出店参加

平成23年9月11日、吉野郡川上村の「森と水の源流館」で開催される予定であったふれあいデーは、直前に発生した台風12号による災害が川上村にも甚大な被害があり中止となりました。

(4) 源流の水源地を啓蒙する「下敷き」の製作、配布

吉野川、紀ノ川の源流水源地の森を守る事業の一環として、地元、および大滝ダムなどを見学に来られる小学生に対し、水源の大切さを啓蒙する為、「下敷き」を製作しました。

川上村の「森と水の源流館」を通じて配布をしました。

5. 食文化の伝承

(1) 限界集落の伝統食を楽しむ会～川上村高原にて～

(伊勢音頭と千本餅搗きを体験)

恒例になった川上村高原地区の伝統食を楽しむ会を、平成23年4月23日当フォーラムと東映OB会が合同で行いました。参加者42名が近鉄上市駅に集合、バスで出発して「水と森の源流館」を見学、自然や環境、生き物たち、いにしえからの人々の暮らしにふれ、源流とは何か、私達の暮らしとどんな関係があるのか体験することができました。また、源流の森シアターでは、巨木が立ち並び、谷筋から水が湧き出す源流の姿をそのまま再現し、四季を通して変化する森の美しさ神秘的な自然現象を巨大パノラマ映像で鑑賞できました。



その後バスで移動し、昼食会場は天候の関係で高原川の溪谷から高原集落の中の広場に変更いたしました。

今回は初めに川上村に伝わる「伊勢音頭」を、川上村伊勢音頭保存会会長の松本修さんに披露していただき、参加者は音頭に合わせて千本餅搗きを体験しました。その後、用意していただいた伝統料理の品々に舌づつみを打ちながら楽しい団欒のひと時を過ごすことができました。

「伊勢音頭について」は江戸時代から川上村の各集落に「伊勢講」があり、集落全体で積み立てをしてその資金で代表者が伊勢神宮にお参りしています。お伊勢参りをして帰ってきた人達を出迎え、土産話を聞く迎向（げこう）という集いがあり、各家からご馳走を持ち寄り、酒を飲み食事をしながら唄ったり踊ったりし、そこで代表者は習ってきた伊勢音頭を披露しています。そのようにして伝わった伊勢音頭が各集落で餅つき唄や上棟唄、結婚式などの祝い唄として歌い継がれています。



◎料理のおしながき

- ①. 鹿肉の薫製、あぶり焼き
- ②. タラの芽、芹、ウド、筍など山菜のてんぷら
- ③. あまご、鮎の塩焼き
- ④. こんにゃくの料理
- ⑤. ふき、イタドリの煮物
- ⑥. 目張りずし、チシャのおにぎり
- ⑦. 茶がゆ
- ⑧. 山菜ごはん
- ⑨. よもぎ餅
- ⑩. 高菜の漬物
- ⑪. 源流の森の水で沸かしたコーヒー
など



(2) 「長屋王の宴の食」を開催

10月1日(土) 飛鳥・万葉時代の貴族が食していたと考えられる料理を伝承料理研究家の奥村彪生先生に再現していただきました。

38名の方が明日香村祝戸荘に集まり、まず奥村先生から長屋王の屋敷跡で発見された木簡に書かれてあっ



た1300年前の食材、食し方についての講演をお聞きしました。

食材が豊富にあり、全国各地から集められていることを聞き、当時の貴族の力を感じるとともに、先生の万葉歌を聞きながら、当時の食事に思いをいただきました。

講演の後、先生の指導で再現していただいた、「もみじ鯛の醬酢」、「索餅のゆで小豆かけ」の2点と、祝戸荘のオリジナル古代食「万葉あすか葉盛御膳」をいただきました。

想像をこえた飛鳥・万葉時代の充実した食事内容にびっくり、堪能いたしました。



索餅のゆで小豆かけ



もみじ鯛の醬酢と万葉あすか葉盛御膳

当日はお天気もよく、周辺は彼岸花が咲き乱れており、食事会終了後は思い思いに秋の明日香を楽しんでいただきました。

(3) 「予告」平成23年度実施予定

春：五條藤岡家見学と五條の伝統料理の試食会開催

平成24年3月3日（土）予定

6. 「神仏霊場会」奈良県ネットワーク支援

平成23年は「神仏霊場会」の内、当県内の寺社ネットワークの推進を支援するため、歴史街道推進協議会とも連携し奈良交通地域振興部主催の、訪問ツアーの支援を行いました。23年10月より催行しております。年度内の3月まで実施し、神仏霊場会県内28社寺を回ります。

年度内の予定

コース名	参拝社寺	催行日
上ツ道から山の辺の道	帯解寺、大神神社、石上神社	3/3(土) 3/6(火)
中ツ道から佐紀・佐保路	大安寺、法華寺、西大寺	3/20(祝) 3/28(水)

理事会構成

理事長	森本 公誠	東大寺 長老
副理事長	堀井 良殷	大阪21世紀協会 理事長
副理事長	山口 昌紀	近畿日本鉄道(株) 取締役会長
専務理事	江並 一嘉	元近鉄百貨店 副社長
理事	足立伸之助	近鉄ケーブルネットワーク(株) 取締役相談役
理事	安細 恭弘	マルチメディアコンサルタント
理事	飯田 圭児	(株)近鉄百貨店 取締役社長
理事	猪熊 兼勝	京都橘大学 名誉教授
理事	卜部 能尚	ウラベ木材工業 代表
理事	扇谷 泰之	(株)シードコンサルタント 取締役社長
理事	大辻 康夫	奈良町情報館 特別顧問
理事	岡橋 清元	清光林業(株) 代表取締役
理事	岡村 元嗣	岡村印刷工業(株) 取締役社長
理事	榎木 康雄	(株)日昂食品 代表取締役
理事	菊池 攻	奈良トヨタ自動車(株) 取締役社長
理事	久保 昌城	竹茗堂 代表
理事	小山 新造	小山(株) 取締役社長
理事	近東 宏光	共同精版印刷(株) 取締役社長
理事	豊澤 安男	奈良豊澤酒造(株) 取締役社長
理事	中井 隆男	大和ガス(株) 取締役社長
理事	中寫 實男	奈良中央信用金庫 相談役
理事	中村 憲兒	奈良交通(株) 取締役社長
理事	西口 廣宗	(株)南都銀行 取締役会長
理事	増尾 正子	増尾グループ 常務取締役
理事	森下 泰行	元近畿日本鉄道(株) 副社長
理事	森本 俊一	三和澱粉工業(株) 取締役社長
理事	山本 太治	(株)三輪そうめん山本 取締役社長
理事	吉川 勝久	近畿日本ツーリスト(株) 取締役社長
監事	中寫 大	中寫大会計事務所 所長
監事	福嶋 重博	奈良県サッカー協会 名誉会長

(50音順 平成24.1.1現在)